

C-3 研究授業の様子

(7) 研究授業の様子

本時は、北海道のおよその面積を求めるものであった。本単元は金沢スタンダードの5年生のおよその面積とつながるものとして考えられた授業である。子どもは、落ち着いて北海道のおよその面積を求めようとしていた。

最初の段階で、ほとんどの子どもが既習の形に見立てることができていた。

しかし、同じ既習の形をつかった見立て方であっても、どこに線を引くかに差が現れた。図形を大きく囲むように線を引くものや等積変形を意識し、はみ出た部分と不足した部分が同じようになる引き方が見られた。

ワークシートを多く準備したことで、子どもがいろいろな方法で挑戦し、多様な考え方を引き出すことに役だった。

また、シートの枚数によって、子どもが自分の学習の進み具合を意識できた。周りの友達への刺激にもなった。そして、間違っても、またシート持ってくればやり直しができ、安心して追究することができたのである。子どもが、自分のペースで主体的に学習することができた。

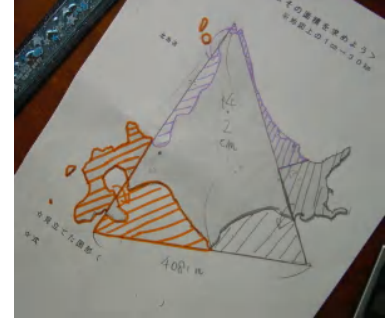
授業整理会では、本時は、子どもから、いろいろな考えを引き出せたことが大変良かったという意見が出た。しかし、子どもが持ったいろいろな考え方をどう整理して、まとめていくかについては、それぞれの教師で違いがあった。

子どものいろいろな考えを整理して、学習として、深め、まとめていくことは、大切な教師の働きである。

そこで、小グループに分かれ、自分なら、この子どもの考えからどのように授業を進めるかについて考え、交流した。教師それぞれが、この授業で、どのような力をつけるのかを明確にすることが重要であることを確認することができた。

研究授業を参観者の立場だけでなく、授業者の立場になって考える機会を持つことができた。

○既習の図形（三角形）の見立て



○自分の考えを伝えようとする姿

